

●アセットマネジメント計画

人口急増都市であった本市では、水道事業にかかる管路や施設の整備は、昭和45年から59年がピークで、年によって整備費用が大きく異なります。また、管路の耐用年数は、整備されている土質の環境によって、法定年数どおり更新する必要がないものがあります。このため、市内すべての管路を調査し、優先順位を決めた上で年ごとの費用ができるだけ平準化するように整備の順番や方法を定めた計画です。

川西市水道モニター

ITO AYAME 伊藤あやめさん

昨年度から水道モニターに
安全で安心な水の供給に向けて
利用者の立場で、水質や匂いを毎日チェック



ITO AYAME

水道モニター

あまり使わない工夫がされてい
ますよね。

管理者 川西市の給水人口は、平成21年度の16万1000人をピークに徐々に減ってきていて、令和元年度では15万7000人程度になると予測しています。それに加え、おっしゃるとおり節水の意識が向上し、器具も節水型が普及しているので、1人1日平均給水量が10年前に比べると12%も減ってきています。

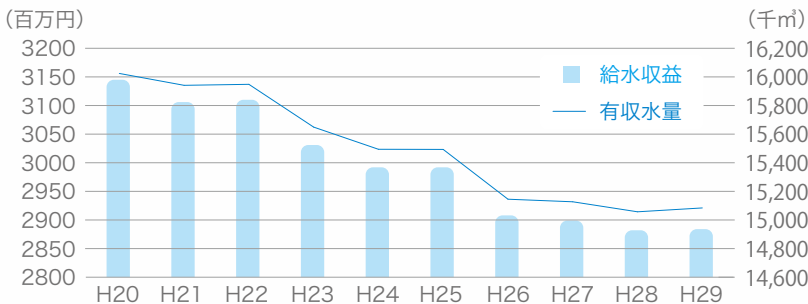
伊藤さん 去年の大阪の地震では、水道管が破裂し水が噴き出している映像をテレビで見えました。管が古くなるとあんなことが起こるんですね。水道管の更新時期も迫っているんですか。

管理者 水道管には法定耐用年数というのが決まっています、40年とされています。約30%が既に法定耐用年数を迎えていて、今後15年間で約75%がその年数を迎えます。

伊藤さん どんどん更新していかないためですね。管の更新費用はどの程度かかるんですか。

●有収水量と給水収益の推移

平成29年までの10年間の有収水量と給水収益（水道料金）をみると、有収水量、給水収益ともに減少し続けています。



で、一律に法定耐用年数で更新すれば約125億円がかかるが見込まれました。ただ、法定耐用年数を超えたからといって、埋まっている場所や状況によつてはすぐに更新する必要がないものもあります。そのような管はできるだけ長持ちさせた方がいいですよ。だから、昨年ですべての管を調査して、更新の順番や時期を決めるアセットマネジメント計画も作っています（左上）。その計画で